



地域特産ブランド野菜等の栽培技術・生理・品質評価・利用に関する研究

生命環境学部 生命科学科
准教授 甲村 浩之 (こうむら ひろゆき)



連絡先 県立広島大学 庄原キャンパス
附属フィールド科学教育研究センター管理棟 (6501)
Tel 0824-74-1844 Fax 0824-74-1705
E-mail kohmura@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 蔬菜園芸学, 植物生理学, 育種学

キーワード： 蔬菜, 特産野菜, 薬草, 栽培法, 植物生理, 育種, 品質評価, 機能性, 持続的農業

● 現在の研究について

庄原キャンパスの立地条件に基づき, 特に, 中国山地, 県中北部冷涼地帯を対象とした地域特産野菜・薬草の栽培上の問題点について調査・分析を行い, 生理生態解明による栽培技術の改良や品質向上に取り組んでいる。

具体的には, アスパラガス, トマトを中心とした地域特産野菜, 近年要望の高い薬草 (トウキ, ミシマサイコ) を対象としている。

アスパラガスでは広島が生んだ全期立茎栽培法に基づいた母茎押し倒し誘引とフラッシュ紡糸不織布を用いたホワイトアスパラガスの夏秋期長期採り, 袋利用株養成による冬採り促成や全雄品種, 紫・さくらアスパラガス等の栽培や品質成分に関する研究を実施中。また, 夏秋トマトでは水稻育苗施設の有効利用のための袋利用栽培やアーチ式放任仕立て栽培の研究 (備北丘陵公園とも共同) を実施している。また, 茎レタス, サツマイモやエゴマに関する研究も行ってきた。



● 今後進めていきたい研究について

野菜・薬草の安定・省力多収・高収益化, 高品質, 高機能化に向けた栽培条件の解明, 新栽培技術・成分分析法の開発に取り組む。光, 温度, 養水分等の環境を調節し, 安全でおいしく, ユニークで高機能な野菜を持続的に栽培できるよう, 栽培と品質 (食味・成分・加工適性) の両面から研究に取り組んでいきたい。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

主として中国山地地域の市町, 研究・指導機関, 農業技術大学校, 農業高校, 農業協同組合, 農業法人, 生産部会や農業参入・関連企業・商工会等と連携して, 生産支援や開発技術の早期普及を行っていきたい。

● これまでの連携実績 (H23 以後のみ記載)

庄原市農産物特産加工品開発事業 (H23, 24), トマト袋利用栽培 (H24-28) アスパラ促成栽培 (H25-28) (庄原市), 庄原市公開講座 品質評価・栽培法 (H23, 26), 三次市茎レタス (H24), 三原市薬草 (H26-27), 県総技研共同 (2 件), 県内食品企業 (継続含み 6 件), 農林水産省 (継続 1 件) 等受諾